

佐農技防第378号
令和7年(2025年)7月18日

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

ナシのハダニ類の防除対策の徹底について

現在、ナシにおいてハダニ類の発生が多くなっています(写真1)。今後も、気温が高く、雨の少ない天気が続くと予想され、ハダニ類の発生がさらに増加することが見込まれます。ハダニ類が多発すると、ナシの葉が褐変して早期落葉するため(写真2)、果実品質および樹勢の低下等の原因となります。

つきましては、下記事項を参考に、防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。



写真1 ハダニ類が加害し褐変した
ナシの葉(2025年7月17日)



写真2 ハダニ類が多発し早期落葉
したナシ園(2017年)

記

1. 防除対策

- 1) ハダニ類は、寄生密度が高くなると防除が困難になるため、低密度時(寄生葉率10%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5~1頭未満)から防除を徹底する。
- 2) 葉が込み合った部分は薬液がかかりにくいいため、かかりムラが無いように丁寧に薬剤を散布する。また、SS散布時に薬剤がかかりにくい園の外周部で発生が多い園地があるため、園の外周部は手散布などで対応する。
- 3) 薬剤の選定にあたっては、過去に使用した薬剤の防除効果の程度や、令和5年に佐賀県果樹試験場が実施した薬剤感受性検定結果(表1)を参考にする。なお、殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、表1のIRACコードを参照し同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。
- 4) 薬剤散布の際は、収穫前日数等の農薬安全使用基準を遵守するとともに、周辺作物等へのドリフト防止などの安全対策に努める。

表1 加温ハウスナシで採集したカンザワハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性(2023年5月30日採集)¹⁾²⁾ (佐賀県果樹試験場調査)

採集地点	IRACコード	補正死虫率(%) ⁵⁾									
		21A	21A	6	10B	20B	23	25A	25A	25B	33
		供試薬剤 ³⁾ サンマイト WP	ダニトロン FL	コロマイト WP	パロック FL	カネマイト FL	ダニゲッター FL	スターマイト FL	ダニサラバ FL	ダニコング FL	ダニオーテ FL
供試濃度 ⁴⁾	4,500倍	6,000倍	6,000倍	6,000倍	3,000倍	6,000倍	6,000倍	3,000倍	6,000倍	6,000倍	
1		81	0	84	65	88	98	68	9	44	—
2		44	7	99	86	86	100	87	10	44	92
3		55	11	87	98	79	100	55	4	68	77
4		81	1	91	99	95	100	89	8	88	100
5		98	5	91	100	94	100	93	39	72	100
6		88	0	95	99	91	99	85	28	20	99

1) 採集地は、佐賀県伊万里市大川町、南波多町の現地圃場。

2) 検定方法は、ナシ葉上に産下された卵を葉液に浸漬するリーフディスク法を用いた。

3) 供試薬剤の剤型は、WP=水和剤、FL=フロアブル剤。

4) 供試濃度は常用の1/3希釈とした。

5) 補正死虫率=(無処理区の生存率-処理区の生存率)/無処理区の生存率×100。補正死虫率が高いものほど効果が高いことを示し、80以上のものを網掛けした。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病虫害総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ QRコード*



防除計画 QRコード*

